



2018年5月31日

Vol.112

信託報酬

信託報酬ってなに？

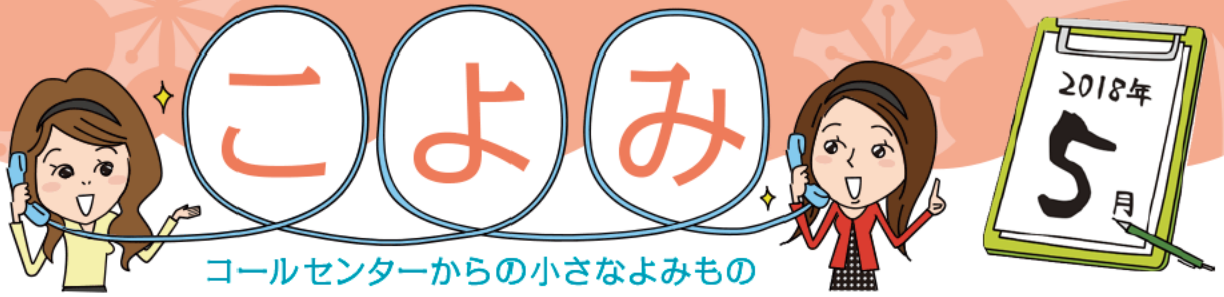
ファンドを保有するお客さまにご負担いただく費用として、信託報酬があります。年率1%未満のものもあれば2%近くかかるものもあり、ファンドによって幅があります。

信託報酬は低い方が良いと思われる方がいらっしゃるかもしれませんが、こういった費用なのかをご理解いただくと、見方が少し変わるかもしれません。

そこで今回は、信託報酬について押さえていただきたいと思います。



□当資料は、日興アセットマネジメントが投資信託の仕組みについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。□投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



コールセンターからの小さなよみもの

信託報酬は、ファンドの運用や管理をするための費用のことです。信託報酬率は、多くの場合、ファンドの日々の純資産総額に対し年率〇〇%となっており、委託会社（運用会社）には、委託した資金の運用の対価として、販売会社には、運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価、そして受託会社には、運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価として、それぞれ決められた配分で支払われます。

そして、毎日、その日の信託報酬を計算し、ファンドの資産から差し引いた上で基準価額を算出します。つまり、信託報酬は、ファンドの保有期間中ずっと発生する費用なので、信託報酬率は低い方が良いと思われる方がお客様の中にはいらっしゃいます。確かに、同じ運用方針で同じ銘柄に投資するファンド同士を比較するのであれば、信託報酬率が低い方が差し引かれる費用が少なくて済むため、運用成果が有利になる可能性が高いと思われます。しかし、ファンド毎に運用方針や投資対象が異なるので、運用にかかるコストも異なります。例えば、対象となる指数に連動した運用を目指すインデックスファンドは、銘柄選択など運用にかかるコストが比較的抑えられるため、信託報酬率を低く設定することができます。一方、指数を上回る成果を目指すアクティブファンドでは、投資対象銘柄などの調査・分析にコストがかかります。そのため、大多数のアクティブファンドの信託報酬率は、インデックスファンドに比べて高くなっています。

信託報酬がどのくらいかかるのか、事前に把握しておくことは大事ですが、ファンドのパフォーマンスは、投資している資産の値動きが大きく影響するので、信託報酬だけを見るのではなく、そのファンドの運用方針や投資対象がお客様の資産運用のスタンスに合っているのかを含めてご検討いただければと思います。



nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00